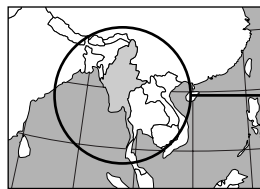


# ユニセフ子ども物語

## 地球に生きる子どものくらし

The Union of Myanmar

ミャンマー連邦



地図は参考のために掲載したもので、国境の法的地位について何らかの立場を示すものではありません。



# 子どもが元気に学ぶことは 地域みんなのねがい

のお金はなかなか集まらず、工事は何度も途中で止まってしまいました。漁業は季節労働のため、お金の集まる時期が限られているので、まとまった工事費がすぐには集まらないからです。



数年前、11歳のティンウィン生まれ育った山の家から海辺の村に移り住んできました。家族はお父さん、お母さん、弟2人、妹2人の7人です。山ではお父さんの仕事がなく、十分な食事をとることができないような生活でした。そこで、安定した暮らしを求めて、漁業がさかんな今の村に家族で引っ越してきたのです。

ミャンマーは、インドや中国の隣りにある国で、仏教への信仰心があつく、子どもたちは親や先生の言うことを大切にしています。ティンウィンもお父さんお母さんの言うことをよく聞きます。これまで漁業の経験がなかったお父さんはまだ仕事になれず、収入が安定しません。それでも苦しい家計をやりくりして、ティンウィンに学校に通わせてくれているので、いつも両親に感謝しています。

ティンウィンが通う小学校には、ティンウィンたちと同じように、村に移り住んできた子どもが次つぎと入ってきました。そのため学校の教室が足りなくなり、先生たちは高床式校舎の1階に新しく教室をつくることにしました。でも木造校舎の1階は床がなく、土の上につくられるので、雨の多い季節には水溜りができることが多く、ばい菌による病気が広まってしまいます。

そこで、先生たちは相談して新しい校舎を建てることにしました。計画は子どもの親たちや村の人たちと先生たちが協力して進めています。でも、新しい校舎を建てるため



ティンウィンはまだ新しい教室で勉強はできませんが、毎日学校に行くのが楽しみで仕方ありません。だから、病気になるように先生が教えてくれることは一生懸命、家で実行しています。食事の前に手を洗ったり、学校から帰ったらうがいをするなどの大切さをユニセフにもらった教科書を使って勉強しているのです。そして、勉強したことを家に帰ってお父さん、お母さん、弟や妹に教えたりもしています。

ティンウィンは学校で学んだ衛生や健康に関する知識をしっかりと実行して、元気に学校で勉強して、はやく親孝行ができるようになりたいと思っています。



<文・構成：(財)日本ユニセフ協会>

ミャンマーは東アジア最西端に位置し、タイ・ラオス・中国・インド・バングラデシュに隣接しています。日本の1.6倍もある土地にくらす人口は約5000万人。ビルマ族が70%を占めるものの、135の民族グループから構成される多民族国家です。天然資源に恵まれたミャンマーは、英国植民地統治、日本の軍政などを経て、1948年に独立。映画『ビルマの豎琴』でも知られるように日本との歴史的関係も深く、1989年まで「ビルマ」と呼ばれていました。穏やかで思いやり深い人が多いミャンマー。女性や子どもたちが、「タナカ」という日焼け止めや蚊よけ、美容効果のあるおしろい（柑橘系の木の幹を石などで擦ったもの）を塗って道を歩いている姿も、国の特徴のひとつです。

# 子どもの健やかな成長のために

## 教育・保健に親や住民が積極的に参加

ミャンマーにある学校のうち、53%の学校に水道・トイレなどの衛生設備がありません。衛生設備が不十分な学校では、休み時間にトイレに並ぶ長い列ができることはめずらしくないのです。

そのため、ユニセフでは井戸やトイレの敷設支援を行っています。実際に敷設するのは住民たちです。地域の特性をいかした井戸、例えば地下水をくみ上げる

井戸や、雨水貯水などを住民に考えて決めてもらいます。住民が参加することによって、故障しても住民が直せ、さらに地域に最適な井戸をつくることのできるからです。

住民参加プロジェクトは他にもあります。例えば、子どもの早期幼児ケア。小学校にあがる前の幼児期の発育は知能発達に大きな影響を与えることから、教員、PTA、ボランティアがよ



井戸の設置や校舎新築にも住民が積極的に参加する ©日本ユニセフ協会

りよい育児普及のために「お母さんサークル」を運営し、お母さんたちが助け合っています。この保育学級に、ユニセフは遊戯道具や栄養に関する研修などを支援しています。



©日本ユニセフ協会

## 「子どもにやさしい学校」 教員の研修や教材の提供への支援

ミャンマーでは、小学校の第1学年に入学した子どもが第5学年に在学する率は約50%。途中退学の主な理由は、設備の整っていない校舎、適切な研修を受けた教員の不足、暗記学



ユニセフが提供している衛生に関する教材 ©日本ユニセフ協会

習法の重視などが挙げられます。適切な研修を受けた教員が不足している背景には教員の給料が低いこと、整っていない職場環境の中でモラルと仕事への意欲が低下しがちなことがあります。

「子どもにやさしい学校」プロジェクトでは、すべての子どもが等しく尊重され、積極的に勉強できる環境をもった学校づくりに取り組んでいます。

すべての子どもが2015年までに基礎教育を修了できるようにすることは、国連のミレニアム開発目標です。ミャンマーでも135ある民族のすべての子どもが基礎教育を終えられるよう、ユニセフでは教員の研修、校舎や教材の提供などの支援を続けています。



授業の様子 ©日本ユニセフ協会

## HIV/エイズから身を守るために

ミャンマーでは、近年HIV/エイズが急速に広がっており、政府も危機感を表明しています。出稼ぎ労働者、特に性産業労働者間の流行率はこの10年で3.6%（1992年）から33.5%（2001年）に急増しました。

さらに、ミャンマーは若者が多い国です。人口約5000万人のうち、約40%がHIV/エイズが蔓延しやすい年代の18歳以下の子どもたちです。そのため感染予防のための教育が欠かせません。ユニセフでは、学校を中心とした保健とHIV/エイズ予防教育プロジェクト（SHAPEプロジェクト）を支援しています。このプロジェクトは健康に関する知識、自分の体を守るために自分の意見を伝える力などを身につけるミャンマー政府認定のカリキュラム授業のひとつです。

また、ミャンマーでは一度学校をやめた子どもたちは再び学校に戻ることが認められていません。そのため、健康に生きるために必要な知識を得ないまま育つ子どもが多く存在します。その対策として、最近ではSHAPEプロジェクトから発展させたプログラムも行っています。このプログラムでは、学校に通えなかったり、働いている子どもたちに、非公式な教育プログラムを提供しています。